ラートロフ採録満州語伊犁方言テキスト訳解

—— キルギズの物語 (1) ——

池 上 二 良

W. Radolff's Texts of the Ili Dialect of Manchu :
A Kirgiz Story (1)
translated
by Jirô IKEGAMI

ま え が き

1895年刊のイワノフスキイ編『満州文選』第2冊 (A. O. Ивановскій, Маньчжурская хрестоматія, выпускъ второй, Санктпетербургъ, 1985) は，その187-212ページに，満州語伊犁地方方言の標本として，発音によってラートロフ (Wilhelm Radloff) が書き記したテキスト (Тексты, записанные (В. В. Радловымъ) по произношенію. Образцы нарѣчій илійскаго края.) をただ原文だけ翻訳はつけず収載している。この露文標題中のラートロフの名は，巻末の目次のなかの標題にのみ括弧に入れて書き加えられている。

このテキストは，1. 歌 (Учуѝ-Пѣсни, Карчін'скія) 189-192ページ，2. (満州語になおして語られた) キルギズの物語 (Киргизская сказка (въ маньчжурскомъ пересказѣ)) 193-210ページ，3. 康熙帝の逸話 (Разсказъ про императора Канъ-си) 211-212ページからなる。

このラートロフ採集資料は，すでにコトヴィチが紹介している (Вл. Котвичъ, Матеріалы для изученія тунгусскихъ нарѣчій, Живая Старина, выпуски II-III, 1909. ヴェ・コトヴィチ，原田道治訳「ツングース諸方言の研究のための資料」『書香』15巻6号，大連，昭和18年)。その紹介のなかで，コトヴィチは，ラートロフのツングース語資料の若干は，印刷のためにラートロフから他の人に渡されたが，その一部は散逸し，一部がイワノフスキイによって上掲書に発表され，そして一番の力作であるぼう大な満州語辞典は今に至るまで手稿のまま残ると記している。

ラートロフは，かれの著書『シベリアより ——わが日記の断片』(W. Radloff, Aus Sibirien, Lose Blätter aus meinem Tagebuche, Leipzig, 1893[2]) によると，中央アジアの調査旅行中1862年と1869年に伊犁地方を踏査した。このテキストは，その際に採集されたものとみられる。1869年伊犁地方滞在中のかれの日記の6月3日の条には，錫伯人のもとにも民歌を採録したものがあることを書きとめており，また翌4日の条には，かれが総管から満州語の手稿を寄贈され，そのなかにはたとえば「新年の歌」や「三国」のような錫伯歌謡の採録があることを記している。なおまた同月13日には，Buleka Bithe(満州語辞典) の完本を購入したことが記されている。なお，この地方の錫伯人の言語は満州語であり，これは錫伯語ともよばれる。ラートロフのこの資料も，錫伯語のものとみられよう。

新年に関する歌は，上記のものと同じものかどうかあきらかでないが，このテキストの歌のなかにもふくまれている。この点を考えると，ラートロフのこのテキストは，上述のように，標題に，発音によって書きとったものとあるが，あるいは，すでに書かれたものへ発音によっ

て手を加えたこともありえよう。後究を待ちたい。したがって，このテキストは，満洲語文語の性質を帯びていることもありえよう。

なお，日記の上記の記事から，コトヴィチが記す満州語辞典にも満州語文語が入っていることが考えられよう。

満州語ないしその錫伯方言の発音については，W. Radloff, Phonetik der nördlichen Türksprachen (Leipzig, 1882) にもその記述が散見する。

筆者は，拙論「満漢字清文啓蒙に於ける満洲語音韻の考察」でこのラートロフのテキストに言及したことがあるが，その後1940年代後半，大学院生であったとき，このテキストを日本語に訳し，カードによる単語および名詞語尾（助詞）・動詞語尾の総索引を作製した。のち，若干の拙文においてはこの資料もまたとり扱った。(注1) しかし，全文の訳稿は未発表のままであったので，旧稿に手を入れ，日本語訳をここに発表する。なお，訳文と原文との対応をあきらかにするため，上掲書にすでに発表されているテキストをここにも引用して掲げ，テキストの各語に日本語をあてる逐語訳をおこなって，各文を訳す。筆者の管見のかぎり，その満州語テキストはいずれの言語にも訳されたことがないようである。ただし，その後1906年と1907年－1908年に伊犁地方で採集したムロムスキ（Fiodor Muromski）の錫伯族の満州語（錫伯語）テキストが，カルジンスキによってこの資料の語彙を付して公刊された（S. Kałużyński, Die Sprache des Mandschurischen Stammes Sibe aus der Gegend von Kuldscha, I. Band, Warszawa, 1977）が，この語彙にはここに扱うラートロフのテキストの語も，ムロムスキのテキストに同じ語が使われているものは引用されている。

なお，このラートロフ採録テキストの原文はロシヤ字で記されているが，ここではこれをローマ字に翻字する。ロシヤ字と翻字のローマ字の対応を以下に掲げる。

а ä б ȍ в г ґ ґ̄ ҕ д е з і і̇ к ḳ л л̀ л̣ l м н н̀ ṇ о п р с т у ф х х̀ χ χ̀
a ä b b̀ w g ǵ ḡ γ d e z i ī k k̀ л л̀ л̣ l m n ń η o p r s t u f h h̀ χ χ̀

ц̣ ч ш ш̀ ы э j ʁ ʼ
j c š š̀ ы э y ʁ ʼ

引用するテキストには，原本における各ページ，各行のはじまる箇所に数字を入れてある。

注1）池上二良「満洲語の動詞語尾 -ci 及び -cibe について」『金田一博士古稀記念言語民俗論叢』東京三省堂，1953.

J. IKEGAMI, Über die Herkunft einiger unregelmässiger Imperativformen der mandschurischen Verben, *Studia Altaica, Festschrift für Nikolaus Poppe zum 60. Geburtstag*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1957.

J. IKEGAMI, The Manchu prolative *deri*, *Ural-Altaische Jahrbücher*, Band 48, 1976, *Eurasia Nostratica, Festschrift für Karl Heinrich Menges*, Otto Harrassowitz, Wiesbaden, 1977.

キルギズの物語 (A Kirgiz story)

193/

1 Emu ejen de nadan haha jui bihebi, uлγa labdu bihebi, honin ṅimaṅ morin
或 王様 に 七人の 男の 子が いた。 家畜が たくさん いた。 羊 やぎ 馬

2 yihaṅ t'emen bihebi, ṅalma turifi tuaǩaburak8 nadan jui de afabufi
牛 らくだが いた。 人を 雇って 番をさせずに 七人の 子 に まかせ

3 tuaǩabuha bihebi. Ineη̇i oci nadan jui tuaǩambi, dobori oci emu bade
番をさせて いたのだった。 昼 は 七人の 子が 番をする。 夜 は 一つ ところに

4 isabufi amγame bihebi. Emu ineη̇i ulγabe gemu dedure bade isabufi,
集め ねむって いた。 或 日 家畜を みな ねる ところに 集め,

5 fiyaη8 deo niη̇un ah8ni baru gisureme, sue aibe g8nihabi, ah8n jabume,
末 弟が 六人の 兄に 向って 言うのに,「あなたたちは 何を 考えていました。」 兄は 答えて,

6 be emu jaka be g8nirak8, šinde ai g8niha ba bi, ajige deo
「おれたちは 一つ こと を 考えてはいない。お前には どんな 考えた ところが ある。」小さい 弟は

jabume, mini
答えて,「私の

7 g8nin uthai tere, muse ah8n deo emu ama deri nadan jui, muse ama oci
考えは 即ち こうです。我々 兄 弟は 同じ 父 からの 七人の 子です。我々の 父 は

8 abka šuṅ gošifi guruṅ-i ejen ohobi, muse nadan ṅalma ǵaṅ-i sargan
天 日が 恵んで 国の 王様 になっています。 我々 七人の 者は まさに 妻を

9 gaime bou ilibuci ojoro erin kai. Musei ama amba ah8n šimbe kemuṅi
めとり 家を たてて よい とき です。 我々の 父が 大きい 兄 の あなたに 未だ

10 boihun ilibure unde, deo bi mini sargan gaira(sic!) erin geli oho. Muse
一家を 立て ないのに, 弟 の 私は 私の 妻を めとる ときに も なりました。 我々

11 i ama muse ah8n deo nadan ṅalma de ya emken de ejen i sarγan jui be
の 父は 我々 兄 弟 七人の 者 に どの 一人 にも 王様 の むすめ を

12 gaimbure, ya emken de hafaṅ-i sarγan jui be gaimbure, ya emken de bayan
めとらせるか, どの 一人 にも 役人の むすめ を めとらせるか, どの 一人 にも 財産

13 ṅalma i sarγan jui be gaimbure, ya emken de cooha ṅalma i sarγan juibe
家 の むすめ を めとらせるか, どの 一人 にも 軍 人 の むすめを

14 gaimbuci ojoro, muse nadan ṅalma de nadan ejen i sargan jui be gaimbu-
めとらせる べきです。 我々 七人の 者 に 七人の 王様 の むすめ を めとらせては

15 rak8. Muse nadan ṅalma encu encu ba deri sarγan gaiha maη̇i, musei
なりません。我々 七人の 者が 別 別の ところ から 妻を めとった ら, 我々の

16 neneγe sain banjiha ah8n deo gemu ehe ombi. Musei ama nadan sargan
さきの 仲よく 暮した 兄 弟が みな 仲がわるく なります。 我々の 父が 七人の むす

17 jui biširе ňalma be baici, muse de ai ejeni sargan jui omna, ai hafan i
めが ある 人 を さがせば, 我々 に どんな 王様の むすめ であろうが, どんな 役人 の

18 sargan jui omna, ai bayan ňalma i sargan jui omna, ai cooha ňalma i
むすめ であろうが, どんな 財産 家 の むすめ であろうが, どんな 軍 人 の

19 sarγan jui omna, nadan sargan jui biširе ňalma oci uthai ombi kai, tere
むすめ であろうが, 七人の むすめが ある 人 なら それで よい のです。その

20 erinde emu ňalma i sarγan jui be ahȣn deo nadan ňalma gaici fuлu eden
ときに 一人の 人 の むすめ を 兄 弟 七人の 者が めとれば ひどく 不足は

21 ojorakȣ kai. Ahȣtasa fiyaηȣ deo i gisun be donjifi, ere gisun umeši
ない のです。」 兄たちは 末 弟 の ことば を きき, 「この ことばは 至極

22 gȣnin de acinaha (acanaha?) sefi, ama han i jakade acame došifi, ama
(おれたちの)考え に かなう」 と言って, 父の 王様 の ところに 会いに 入り, 父の

23 han hendume, sue saiň i bimna sefi, be saiň i bimbi gisurefi,
王様が 言うのに, 「お前達は 元気 で いるか」と言い, 「わたしたちは 元気 で います」 と 話し,

ajige haha
小さい 男の

24 jui jabume, meni ahȣn deo ňadan nalma bu(?) uttu tuttu seme hepšefi
子が 答えて, 「我々の 兄 弟 七人の 者 我々は あれ これ と 相談し

194/
1 ama han de donjibuki seme jihe. Mende bou ilibuci sargan gaimbuci
父の 王様 に おきかせしたい と言って 来ました。我々に 家を たて 妻を めとらせて

2 ojoro erin be dahame, nadan sargan jui biširе ňalma deri meňi nadan
よい ときです から, 七人の むすめが ある 人 から 我々 七人の

3 ňalma de sarγan obume gaimbuci, be umai fuлu eden ojorakȣ kai. Ama
者 に 妻 として めとらせれば, 我々は 決して ひどく 不足は ない のです。」 父は

4 nadan jui gisun be donjifi mini jusei gisun ǵan sefi, ama bi
七人の 子の ことば を きいて「わしの こどもたちの ことばは 尤だ」と言い, 「父 である わしは

nadan sar-
七人の

5 gan jui biširе ňalma be baime geneki.
むすめが ある 人 を さがしに 行こう。」

6 Ama han juse sargaň i emgi sain biso sefi etkuadu be etufi gaлa de
父 の 王様は 「子らが 妻 と ともに 達者で おれ」と言って 衣 服 を 着て 手 に

7 teifun mou jafafi, nadan sargan jui biširе ňalma be baime yabuha.
つえを とり, 七人の むすめが ある 人 を さがしに 行った。

8 Teifun mou be sujafi iniηdari yabuhai han-i sain etku gemu efujeme
つえ を 支えにし 毎日 歩いていると 王の 立派な 着物が みな やぶれて

9 manafi buda gàhure ǹalma i adali ohobi. Utu yabuγai emu
さけ 飯を もの乞いする 人 の ように なった。このようにして 歩いていると ある

hotun sabumbi,
城が みえる。

10 hotun i hanci išinafi t'uaci, emu amba yafan kʊaran sabumbi. Yabume
城 の 近くに 着いて 見ると, 一つの 大きな 庭の かこいのある所が みえる。 歩いて

11 geneγei hʊarań i dalba be yabume jimbi. Hʊarań i dorgi de sargan juse
行きながら かこい の 傍 を 歩いて 来る。 かこい の なか で むすめたちが

12 yilgan tucime yabumbiγe. Emu ajige sargan jui hecen-i senke deri t'uafi,
声を 出して 歩いていた。一人の 小さい むすめが 城 の 穴窓 から みて,

13 e eyun eyun sefi, eyun sue hodun ebši jiu, ere jidere
「おや 姉さん 姉さん」と言い,「姉さん あなたたち はやく こちらへ おいでなさい。この 近づいて来る

sagda be sue
年寄 を あなたたち

14 t'ua, ere uthai muse i amγa kai. Utu gisurere de, sargan juse ere
ごらんなさい。これ こそ 私達 の 舅 です。」このように 話す と, むすめたちは この

15 ajige sargan jui be t'uame hendume, ya baye emu buda ǵafure ǵahtube
小さい むすめ を みて 言うのに, 「どこかの 一人の 飯を もの乞いする 乞食を

16 amγa sembi sefi, gemu yabuha. Dahime geli tere ajige sargan jui yafan
舅 と 言う」 と言い, みな 行ってしまった。再び また その 小さい むすめは 庭の

17 kʊaran de hurgime jifi tere sagda be sabufi, gege sue t'ua, ere sagda
かこい に 戻って 来て その 老人 を みて,「お姉さん あなたたち みなさい。この 年寄は

18 muse i amγa oci ojoro ǹalma kai. Tede tere amba sargan juse hendume,
私達 の 舅 となる べき 人 です。」そこで その 大きな むすめたちが 言うのに,

19 emu joγun yabure buda baira ǹalma be даналама(?) genemna seme t'uafi,
「一人の 道を 歩いて 飯を もの乞いする 人 に ついて 行くのか」と言いながら 見て,

20 gemu yafań-i dorgide teisu teisu yabuha.
みな 庭 の なかを おの おの 歩いていた。

21 Ere sagda yabume jiγei hotunde došifi t'uame yabure de, emu amba
この 老人は 歩いて 来ながら 城に 入り 見て 行く と, 一つの 大きな

22 sain bou be sabufi, ere bade došifi bi majige beye ergeme fonjime da-
立派な 家 を みて, この ところに 入り「わしは 少々 体を 休めて 尋ね

23 ciлame t'uaki sefi, juleši alkame genefi t'uaci, emu hehe ǹalma meηuń
質して みよう」 と言い, さきへ 進んで 行って みると, 一人の 女の 人が 銀

24 i feηseku aišiń i mašu jafafi ciγe samarambi. Ere sagda uce i jaka-
の はち と 金 の 杓子を とって 馬乳酒を わかしている。この 老人は 戸口 の ところ

25 de t'ehe maŋi, fonjime, ši ainaha ńalma, ši bayan ńalma i sargan na,
に 腰をおろした あと, 尋ねて,「あなたは どういう 人か。 あなたは 財産家 の 妻 か。

26 ejeń i fuyan na seme fonjire de, tere hehe alame hendume, be oci ejeń
王様 の 妃 か」 と 尋ねる と, その 女の人は 告げて 言うのに,「私ども は 王様

27 i fuyan, umai gua ńalma i sargan waka seme gisurefi, ere sagda deri
の 妃で, 決して ほかの 人 の 妻では ありません」 と 話し, この 老人 に

28 fonjime, ši ainaha ńalma, ya deri jiγe, šiń-i ba ya bade
尋ねるのに,「あなたは どういう 人です。 どこ から 来たのです。あなたの ところは どこに

bi, ai baita
あります。 どんな ことを

29 yabumbi. Sagda alame kendume, bi geli emu guruńi i ejen-biγe, bi joγ8n
しています。」老人は 告げて 言うのに,「わし もまた 一 国 の 主であった。わしは 道を

30 yabume mińi etku gemu manafi h8ajame efujeme wajiha. Minde biši-
歩いて わしの 着物は みな ぼろぼろに さけて やぶれて しまった。 わしのところには

31 reŋe nadan haha jui bi, ere nadan jui be gemu sargan gaıre unde biγe.
七人の 男の 子 がある。 この 七人の 子 が みな 妻を まだめとらないで いた。

32 Utu ofi mińi beye ašafi nadan sargan jui bišire ńalma be baime ya-
それ で わし 自身 動いて 七人の むすめが いる 人 を さがして 歩いて

33 bumbi. Utu alara de, fuyan sagda ši wešhuń-i bade t'eki sefi, meŋuń
いる。」 かく 告げる と, 妃は「老人の あなたは かみ(東)の 座に 座って下さい」と言い, 銀の

34 feŋseku i ciγe be sagdai juleri šindafi omibume ulebume wajifi, meńi
はち の 馬乳酒 を 老人の 前に おいて 飲ませ 与えて 終ってから,「私達の

35 eigen sargan geli guruń i ejen, mende bišireŋe nadan sargan jui, ere
夫婦 もまた 国 の 主です。わたしどものところには 七人の むすめが います。この

36 sargan juse be nadan haha jui bišire ńalma de sadulaki seme, meńi ejen
むすめたち を 七人の 男の 子が ある 人 に 縁づけたい と言って, わたしどもの 主人は

37 udugeri tucifi nadan jui bišire ńalma be baime šue baγarak8 ofi, geli
幾度も 出て 七人の 子が ある 人 を さがして すぐには 得られない ので, また

38 nadan haha jui bišire ńalma be baime geneγe, goidarak8 de jimbi, ši
七人の 男の 子が ある 人 を さがしに 行きました。ほどないうち に 来ます。 あなたは

39 taka aɲafi bisu, muse uthai abka yarume sain sadun ombi seme gisureme
しばらく 待って いて下さい。私たちは 即ち 天が 導いて よい 親戚に なります」と 話して

195/
1 bišire de, ere fuyań i eigen došinjiha. Ere ejen jiɲidame hendume, bi
いる と, この 妃 の 夫が 入って来た。 この 主は 怒って 言うのに, 「わしは

2 ere nadan haha jui bišire ńalma be baime yabufi, etku aduń gemu h8ajame
この 七人の 男の 子が ある 人 を さがしに 行き, 衣 服が みな さけて

3 manaγa, niŋun haha jui bišire ṅalma bi, nadan jui bišire ṅalma be yar-
やぶれた。六人の 男の 子が ある 人は いる。 七人の 子が ある 人 を 本当

4 ǵaṅ i baγarak8, ši ere nadan sargan jui be banjire aŋaлa emkem be
に 得られない。お前は この 七人の むすめ を 生む よりは 一人 を

5 haha jui banjici ojorak8 biγena seme jili banjire de, fuyan hendume,
男の 子に 生むべきで なかっ たか」 と言って 怒りたてる と, 妃が 言うのに,

6 sagda ši ume jilidara, gick8 ombi, muse i sadun bou de jifi šimbe aǹame
「おじいさん あなた 怒りなさるな。はずかしい です。私たちの 親戚が うちに 来て あなたを 待って

7 utaлa ineŋi oho seme aлara de, sagda urgunjeme bayalame tere nadan
こんなに 日が たちました」 と 告げる と, 老人は 喜んで 気が晴れて その 七人の

8 jui bišire ejeṅ i emgi nadan ineŋi nadan dobori sadulaha doroi sarin
子が ある 王様 と 一緒に 七 日 七 晩 縁を結んだ 儀式の さかもりを

9 sarilafi, sagda ejen de etk' nadun halame etubuhe maŋi, jue ṅalma ishunde
し, 年老いた 王様 に 衣 服を 換えて 着せた あと, 二 人は 互に

10 hebšeme gisurefi, bi bou i baru mudaki, yoγ8n goro ataŋi jidere be
相談して 話し, 「わしは うち の 方へ 戻りたい。 道は 遠い。 いつ 来るか を

11 tohtobuki sefi, ineŋi ̀ba be gisureme toktobufi, nadan jui bišire sagda
きめましょう」 と言い, 日 月 を 話して きめ, 七人の 子が ある 老人は

12 bou i baru juraha.
うち に 向って 出発した。

13 Sagda bou de išinaha maŋi, juse sa ogdume genefi ama han de acafi
老人が うち に 近づく と, 子ら たちは 迎えに 行って 父の 王様 に 会い

14 yarume bou de došimbuha maŋi, juse sa ama i yabuha geneγe baita be
導いて うち に 入れた のち, 子ら たちは 父 が 歩いた 行った こと を

15 ama de fonjire de, ama alame hendume, ama bi nadan sargan jui bišire
父 に 尋ねる と, 父は 告げて 言うのに, 「父 の わしは 七人の むすめが ある

16 ṅalma be baime tucifi yabume geneγei udu udu ̀ba yabufi emu guruṅ i
人 を さがしに 出て 歩いて 行きながら 幾 幾 月も 歩いて 一つの 国 の

17 hotun de išinaha maŋi, tere guruṅ i ejen de nadan sargan jui biγebi,
城 に つく と, その 国 の 王様 に 七人の むすめが いた。

18 tere ejen geli nadan haha jui bišire ṅalma be baime utaka ̀ba yabuγa
その 王様 もまた 七人の 男の 子が ある 人 を さがして これほどの 月を 歩いて

19 bi. Apka yarume gamafi top seme tuŋalaha nadan sargan jui i ama eme
いた。 天が 導いて 連れて行き まさ に 出会った 七人の むすめ の 父 母だ。

20 keši tucifi ineŋi ̀ba boлjofi gaime genembi.
天福 顕現し 日 月を きめ めとりに 行く。」

21 Baljoγo ineŋi išinaha maŋi han amba jui be hʊlafi alame, bi generakʊ
きめた 日が 近づいた ので 王は 大きい 子 を 呼んで 告げて,「わしが 行かない

22 oci ere sarin arame ojorakʊ, bi geneci gurun bou de karmara barǵara
と この 酒盛を することが できない。わしが 行けば 国や 家 に 保護する 収攬する

23 ńalma akʊ. Utu be dahame amba jui ši tutafi ama i orunde t'efi gurun
人が いない。それだ から 大きい 子 の お前は 居残り 父 の 空いた位に つき 国や

24 bou i baita be ichaki, ama bi genefi sarin doro be alibufi šiṅi sargan
家 の こと を 処理してほしい。父 の わしは 行って 酒宴の 儀礼 を うけてもらい お前の 妻

25 be gajifi jiki seme gisurere de, amba jui ojorakʊ oho maŋi, jacin jui
を 連れて 来たい」 と 話す と, 大きい 子は そうできなかった ので, 二番めの 子

26 be hʊлafi, ere geli ojorakʊ, jilaci jui, duici jui, sinjaci jui, niŋuci
を 呼び, これ もまた できない。三番めの 子, 四番めの 子, 五番めの 子, 六番めの

27 jui gemu ojorakʊ oho maŋi, fiyaŋʊ jui hʊlafi fonjime, ši tutamna tu-
子 みな できなかった ので, 末 子を よんで 尋ねて,「お前は のこるか, のこ

28 tarakʊna, Fiyaŋʊ jui jabume, ama šini gisun ǵam-bi sefi, uthai bi tu-
らないか。」 末 子は 答えて,「父上 あなたの ことばは 尤もです」と言い,「すなわち 私は

29 taki, sue gemu genefi, bi guruṅ de tutafi baita be ichaki, sarin jaka
残りましょう。あなたがたは みな 行き, 私が 国 に 居残り こと を 処理しましょう。酒盛の品

30 hacim be sue uthai gamafi mini sargan be gajifi jiu sefi, sargan gaime
々 を あなたがたが すなわち 持って行き 私の 妻 を 連れて 来て下さい」と言い, 妻を 娶りに

31 geneγe ama ahʊn be dafuлafi, beye bou de tutaha.
行った 父 や 兄 を なだめ, 自分は うち に 居残った。

32 Ama ahʊn yabume tere gurun de išinaha maŋi, tuktan ineŋi ajige sarin
父 や 兄は 行って その 国 に 着いた のち, 初 日に 小さな 酒盛を

33 araha, jai ineŋi amba sarin dahilafi ere hotun gupci ajige amba ńalma
した。次の 日 大きな 酒盛を 繰返し この 城 全体の 小さい者 おとな

34 be gemu solifi emu ineŋi emu dobori sarilafi, jai ineŋi niŋun haha jui
を みな 招いて 一 日 一 晩 酒盛し, 次の 日 六人の 男の 子

35 be niŋun sargan jui be hoлbofi meni meni tere dedure bou de bibuhe,
を 六人の むすめ に 娶わせ めい めい その 寝 屋 に いさせた。

36 fuyaŋʊ sargan jui i hojihun gurun de tutaha ofi, fuyan (sic!) sargan jui
末 むすめ の 婿は 国 に 居残った ので, 末 むすめ

37 be holboro ńalma aku ofi emu suлa bou de bibuhe biγe. Ere fuyaŋʊ sargan
を 娶わせる 人が いなく て 一軒の 空 家 に 留めて あった。この 末 むす

38 jui dobori ere hotuṅ i emu sagda mama i jakade genefi soŋomo alaraŋe,
めは 晩に この 城 の 一人の 老 婆 の ところに 行き 泣いて 告げるのには,

39 miṅi niŋun eyumbe ṅiŋun ṅalma de holboho, mimbe bumbi seme holtofi
「私の 六人の 姉を 六人の 人 に 娶わせた。 私を やる と 偽って

196/
1 minde hojihun akɐ seme mama de soŋome fame alara de, mama hendume,
私に 婿が いない」 と 老婆 に 泣いて のどをからして 告げる と, 老婆が 言うのに,

2 sargan jui ši ume soŋoro, šiṅi hojihɐn gurun bou i baita be ama i
「むすめよ お前は 泣くな。 お前の 婿は 国や 家 の こと を 父 の

3 orunde alifi gurun de ichame tutaha bi, ši geneγe maŋi šinde uлin
空いた座で 受理し 国 で 処理して 居残って いる。お前が 行った ら お前に 財

4 nadan jaka hacin bou boiγon ulγa morin ele hacin jaka šinde amba
宝 品 々 家 土地 家畜 馬 あらゆる ものを お前に 大きな

5 ubu baγabumbi. Šini hojihun tere ahɐn deo niŋun ṅalma deri get(u)hun
分け前を とらせる。 お前の 婿は その 兄 弟 六 人 より 頭がよく

6 mergen kankan batur bime haha sain. Sargan jui donjifi umeši urgun-
賢く 強健で 勇敢で あって 男として 立派だよ。」 むすめは きいて 大変 喜んで

7 jeme bayulafi, sagda mama hendume, sue eyun non nadan ṅalma be ama i
気が晴れると, 老 婆が 言うのに,「お前たち 姉 妹 七人の 人 が 父 の

8 bou de yabure de, šini ama eme suembe urunakɐ hɐlafi ulha jaka hacin
家 に 行く とき, お前の 父 母は お前たちを 必ず 呼んで 家畜 品々を

9 bumbi, wajima de šinde ulin nadan jaka hacin buci, ši ume gaira, ši
与える。 しまい に お前に 財 宝 品 々を 与えたら, お前は とるな。 お前は

10 gisure, ama minde šiṅi tere bure aišin meŋun gemu tusa akɐ, mini
言え。『お父様 私に あなたの その 与える 金 銀は みな 益が ありません。 私の

11 amγa guruṅ i ejen ofi ulγa jaka hacin aišin meŋun gemu bi kai, minde
舅は 国 の 王様 ですから 家畜 品々 金 銀は みな あるの です。私には

12 emu jaka baita akɐ sere de, ama soŋome heudume, jui ši miṅi
一 物も 用が ありません』 と言う と, 父は 泣いて 言って, 『子よ お前は 私の

haji sain
かわいい みめ

13 t'uara jui biγe, ama šinde ai seci ai be buki, sefi, ši gisure,
美しい 子 であった。 父は お前に 何でも 言えば 何 でも やろう』と言い, お前は 言え。

ama ši
『お父様 あなたは

14 ai be seci ai be buki seci, ši emu gashɐn ara
何 でも 言えば 何 でも やろう とお言いになるなら, あなたは 一つ 誓を たてて下さい』

sefi, šiṅi ama gashɐn
と言い, お前の 父が 誓を

15 araha maŋi, ši gisure, nadan dapkuri na i fejergi de geli nadan dapkuri
たてた ら, お前は 言え。『七 重の 土地 の 下 で さらに 七 重の

16 sele i horgon dorgi de bišire hoaŋ bioo sere morimbe buki, moriṅ i da-
鉄 の 囲いの なか に いる 黄 栗毛 という 馬を 与えてほしい。 馬 の

17 reme de haitaγa bou bi loγo be buki. Ere sargan jui mama i gisun be
腰 に 結えた 宝 の 腰刀 を 与えてほしい。』」この むすめは 老婆 の ことば を

18 dɔnjime wajifi, beye i bou i baru mudame jifi amγaγa. Šimari erde
きき おえて, 自分 の うち の 方へ 戻って 来て ねむった。 翌朝 はやく

19 jilifi uγuri nadan sargan jui be ama hɜlame gamafi, emken emken sargan
起き 全部 七人の むすめ を 父が よんで 連れて行き, 一人 一人 むすめ

20 juse de ulin nadan jaka hacin uлγa morin gemu ṅalma t'omo buhei, fiyanɜ
たち に 財宝 品々 家畜 馬を みな 一人 毎に 与えながら, 末

21 sargan jui de išinaha maŋi, ama alame, ši mini saiṅ i t'uara sargan jui
むすめ に 至った ので, 父は 告げて, 「お前は わしの みめ美しい むすめだ。

22 ama miṅi haji fiyaŋɜ sargan jui biγe, ama šinde ulin jiγa aišin meŋun
父の わしの かわいい 末 むすめ であった。父は お前に 財宝 銭 金 銀

23 ulγa adɜn labdu buki seci, sargan jui fuγali ojorakɜ, ama
家畜 牧畜群を たくさん やりたい」 と言うと, むすめは 「とんでもないことです。 お父様

šini tere
あなたの その

24 bure jaka minde tusa akɜ, mini amγa guruṅ i ejen ofi ai jaka
与える ものは 私に 益が ありません。 私の 舅は 国 の 王様 ですから どんな ものも

gemu
みんな

25 bi kai. Ama hendume, ama i haji jui ši donji, ama šinde
ある のです。」父が 言うのに, 「父 の かわいい子 の お前よ ききなさい。 父は お前に

ai seci ai be
何でも 言えば 何 でも

26 buki sefi soŋome hendure de, sargan jui minde šini tere bure jaka
やろう」と 泣いて 言う と, むすめは 「私に あなたの その 与える ものは

27 gemu baita akɜ, ši minde yarġan-i hairarkɜ oci, ši emu gashɜn
みんな 用が ありません。あなたは 私に 本当 に 惜しまない なら, あなたは 一つ 誓を

ara.
たてて下さい。」

28 Ama gashɜn arame hendume, ama šinde ai be ocibe buki seme gashɜn
父は 誓を たてて 言うのに, 「父は お前に 何 でも やろう」 と言って 誓を

29 arara de, sargan jui ama minde šini tere nadan dapkʊri na i fejergi
たてる と, むすめは 「お父様 私に あなたの その 七 重の 土地 の 下

30 nadan dapkʊri sele i horγon de hoaη ̀bau morin, tere moriṅ-i dareme de
七 重の 鉄 の 囲い にいる 黄栗毛の 馬 と その 馬 の 腰 に

31 bišire bou bi лoγo be minde bu sehe maηi, ama yarġaṅ-i haji jui ofi
ある 宝の 腰刀 を 私に 下さい」 と言った ので, 父は 「本当 に かわいい 子 だから

32 šinde ere morin лoγo be ai indahʊn adali ṅalma šinde gisureγe, ama bi
お前に この 馬 と 腰刀 を どんな いぬの ような 者が お前に 話した。 父の わしは

33 nadanju sede išinacibe ere morin be damu nadan mudan sabuha, ama
七十 才に なるが この 馬 を ただ 七 回 みた。 父は

34 šinde utu ocibe hairarakʊ gajifi buki sefi, moriṅ-i horgon de genefi,
お前に このよう でも 惜しまず 連れて来て やろう」と言って, 馬 の 囲い に 行き,

35 morin be hadalafi eηemu toγofi sargan jui jakade gajime jifi morin-
馬 に 轡をし 鞍を おき むすめの ところに 連れて 来て 馬

36 de yalubuha. Niηun sargan jui sain sejen de tefi ele ulγa jaka hacin
に 乗らせた。 六人の むすめは 立派な 車 に 乗って あらゆる 家畜 品 々

37 aγa neγu i sasa gemu tuciha. Fiyaηʊ sargan jui uлγa akʊ jaka hacin
召使い や 下女 と ともに みな 出立した。 末 むすめは 家畜も なく, 品 々も

38 akʊ emteli hoaη ̀bau morin-de yalufi лoγo be dareme-de unume gaiha.
なく, ひとり 黄栗毛の 馬 に 乗り 腰刀 を 腰 に おびて とった。

39 Sargan jui ama sadun de alame, joγʊn dulin de išinaha maηi emu oηko
むすめの 父は 親戚 に 告げて, 「道 なかば に 至る と 一つの 牧場

197/
1 muke orho sain bišire ba bi, ede ume ebure, embici ebergi
水 や 草が よい 場所が ある。ここでは 決して 馬をおりないで下さい。或は こちらの方

de ebuki
で おりるか,

2 embici ere ba i cargi de ebuki sehe maηi, gemu jurafi yabuha. Sagda
或は この 場所 の 向うの方 で おりて下さい」と言った あと, みんな 出発して 行った。 老人は

3 sargan juse be gemu jurambufi bedereme bou de došici, umai jaka
むすめたち を みな 出立させ 帰って うち に 入ると, 全然 ものが

4 funceγ'akʊ bi, tulgi de tucifi hotun dorgi de baicame t'uaci, uлγa adun
残っていなかった。 そと に 出て 城の なか で 調べて みると, 家畜 牧畜群は

5 emke inu funceγ'akʊ bi, uγuri uлγa gemu hoaη biau morim be daγaлafi
一匹 も 残っていなかった。 全部の 家畜が みな 黄栗毛の 馬 を 追って

6 yabuhabi. Bou i baru mudafi horgon de t'uaci, eηemu toγoγo morin be
行ってしまっていた。 家 の 方へ 戻って 囲い を みると, 鞍を おいた 馬 に

7 yalufi sarγan jui amarγi deri neγeme hanci išinaha maŋi, sarγan jui
乗り むすめの あと から 追って 近くに 着いた のち, むすめ

8 be hʊlame hendume, amai haji jui ši ama ici emu mudan t'uacina sefi,
を 呼んで 言うのに,「父の かわいい 子 の お前 父の 方を 一 度 みてほしい」と言い,

9 sarγan jui amaši forofi t'uaci, amasi bedereme yabumbi, uлγa adun
むすめは うしろへ ふり向いて 見ると, あとへ 帰って 行く。 家畜 牧畜群は

10 yilan ubu de emu ubu amaši sagda be dahaлame yabuha. Sagda bou de
三 分 の 一 あとへ 老人 を 追って 行った。 老人は うち に

11 išinafi dahime geli amcame genefi, sargan jui be hʊlame, ama i fiyaŋʊ
着き 繰返して また 追って 行き, むすめ を 呼んで,「父 の 末

12 jui ši donji, ama i sain t'uara haji jui biγe, eneŋi waлafi genere, ge-
子 の お前 きけ。 父 の みめ美しい かわいい 子 であった。今日は あとにのこして 行く,

13 nere be dahame ama ici šini tere aišin cira be emu meyen t'uabuci
行く に よって 父の 方へ お前の その 黄金の 顔 を 一 度 みせるが

14 ojoro seme hʊlara de, sargan jui amaši forofi t'uaci, ama ya kejeṅi
よい」 と 呼ぶ と, むすめは うしろへ ふり向いて 見ると, 父は はるか 遠く

15 amaši mudaγa bi, uлγa adun yilan ubu de jue ubu gemu ama be daγa-
あとへ 戻って行って いた。 家畜 牧畜群は 三 分 の 二 みな 父 を 追って

16 лafi bedereme yabuha. Hotun de bedereme išinafi dahime geli sarγan
帰って 行った。 城 に 帰り 着いて 繰返して また むす

17 jui be neγeme jifi, amai jui ši ama i hʊlara be saiṅ-i donji, ama šimbe
め を 追って 来て,「父の 子 の お前 父 が 呼ぶの を よく きけ。 父は お前を

18 beлekeṅ-i hʊašabuγaŋe waka, šiṅi tere aišin cira be ama emu de
たやすく 育て上げたのでは ない。 お前の その 黄金の 顔 を 父は 一 度

19 t'uaki sefi amaši mudaγa. Sarγan jui ama i hʊlara be donjifi amaši
みたい」と言って あとへ 戻って行った。 むすめは 父 が 呼ぶの を きいても あとへ

20 bederefi t'uaγakʊ, ulγa adun yilan ubude emu ubu sarγan jui be daγalafi
帰って 見なかった。 家畜 牧畜群は 三 分の 一 むすめ を 追って

21 yabuha. Ama bou i baru mudaγa. Urun gaime genehe sagda ejen juse
行った。 父は うち の 方へ 戻った。 嫁を めとりに 行った 老いた 王様 と 子らは

22 urun be aγa neγu ulγa adun be gemu dalifi yabume, sargan juse i ama
嫁 を 召使い 下女 家畜 牧畜群 を みな 護衛して 行きながら, むすめたち の 父が

23 alaha bade utala ineŋi yabufi išinafi, morin sejen be ebufi emkeṅ i
告げた 場所に それだけ 日数 行って 着き, 馬 や 車 を おりて 一人

24 oci t'ua gajimbi, emken muke gajimbi, ulha adumbe ulebureŋe ulebumbi,
は 火を もって来る。 一人は 水を もって来る。 家畜 牧畜群に 餌をやる者は 餌をやる。

25 t'uakaraŋe tuakambi. Ere sagda saduṅ-i alaγa gisun be oŋoho, sue
番をする者は 番をする。 この 老人は 親戚 が 告げた ことば を 忘れていた。「あなたたちは

26 tere bade išinaha maŋi ume indere. Fiyaŋ8 sargan jui amγa i baru
その 場所に ついた ら 決して やすむな。」 末 むすめは 舅 に 向って

27 hendume, ebši yabure erinde mini ama aлaha gisun ere ba de išinaha
言って, 「こちらへ 来る ときに 私の 父が 告げた ことばに『この 場所 に 着いた

28 maŋi ume ebure seγe biγe, eneŋi ere ba de ainu ebumbi, caši yabufi
ら 馬をおりるな』と言って いました。 今日 この 場所 に なぜ おりるのです。あちらへ 行って

29 ebuki ere šiden, uγuri amba eyun sejen deri uju be tucibufi hendume,
おりましょう」と言っている あいだに, 全部 大きな 姉が 車 から 頭 を 出して 言うのに,

30 ši ajiksaka ṅalma ai be sambi, ši uthai danambi na, be
「お前 のような 小さい 者が 何 を 知る。 お前 は 余計な口をはさむのです か。 私たち

uthai ere bade
は この 場所に

31 ebufi tatambi. Gisun be gair'ak8 gemu dedufi amγaγa maŋi, fiyaŋ8 sar-
おりて とまります。」 ことば を きき入れずに みな ねて 眠った ので, 末 む

32 gan jui emhun morin be emu da mou i jakade ilibufi morin dalba dы
すめは ひとり 馬 を 一 本の 木 の もとに 立たせ 馬の 傍 で

33 t'uama teγe. Daci hotun de biγe fonde tere mama ere sargan jui de
見張りつつ 坐った。 かねて 城 に いた ときに あの 老婆が この むすめ に

34 juda gasha i fuŋaлa buγe biγe bi, erebe jafafi moriṅ i dalbade tuam-
二本の 鳥 の 尾羽根を 与えて あった のである。 これを とって 馬 の 傍で 見張って

35 biγei gaitai jue t'ua i elden goroderi sabubumbi. Ere be tu'ama teγei
いると 突然 二つの 火 の 輝きが 遠くから みえる。 これ を みつつ 坐っていると

36 šue ishun jimbi, jiγei hanci išinaha maŋi, t'uaci emu amba muduri
まっすぐ 向って 来る。 来ながら 近くに 至った のち, みれば 一匹の 大きい 龍

37 biγe bi. Tua seme sabuhaŋe jue yasa biγebi, aŋa deri sugdun
であった のである。 火 と みえたのは 二つの 目 であったのである。 口 から 気を

fuseme,
吐いて,

38 jeki seme šue hanci išinaha maji, gaлa de jafaγa jue da fuŋala
食おう と まっすぐ 近くに 至った あと, 手 で つかんだ 二 本の 尾羽根

39 be sabufi umainame mutehak8 ofi, ere deduγe ṅalma uлγa adun uγuri
を みて どうすることも できなかった ので, この ねた 人 家畜 牧畜群 すべて

198/
1 be gemu beye i horime gaifi uju be šue amγaγa urse i dulimba-de
を みな 胴体 で 遠巻にして とりこみ 頭 を まっすぐ ねむっている 者たち の まんなか で

2 ere juse i amγaγa ama-de mudabufi salabe jafafi getebuhe.
この 子ら の ねむった 父 に 戻し ひげを つかんで 揺り起した。

3 Sagda de getebufi muduri hendume, ši hono sain kai, miṅi bade jifi
老人 を 揺り起し 龍が 言うのに, 「お前 も いい気なもの だ。 わしの 場所に 来て

4 orγo be ulebume muke be omibume deijik8 deijime miṅi babe gemu waji-
草 を 餌にやり 水 を のませ たきものを たき わしの 場所を みな おしまいに

5 buha, bi t'e sueni ere uγuri ṅalma ulγa be gemu nuηembi sefi, sagda
した。 わしは 今 お前たちの この 全部の 人間 家畜 を みな 呑む」 と言い, 老人が

6 hendume, miniη(ge) niηun haha jui niηun urun be gemu buki, mimbe šin-
言うのに, 「わしの 六人の 男の 子 六人の 嫁 を みな やろう。 わしを 釈放

7 dafi uηiki seγe maηi, muduri hendume, šiṅi tere uγuri ṅalma ulγa
して つかわしてほしい」と言う と, 龍が 言うのに, 「お前の その 全部の 人間 家畜

8 adun minde emu baita ak8, šiṅi tere urun juse i adali minde labdu bi,
牧畜群は 私に 一つの 用も ない。 お前の その 嫁 や 子ら の ように わしにも たくさん ある。

9 damu šiṅi tere bou de bišire fiyaη8 jui waη bedaη be minde buci, uthai
ただ お前の あの うち に いる 末 子 の ワン ベダン を わしに くれれば, すぐ

10 šiṅi tere uγuri ulγa adun ṅalma aηala jaka hacimbe gemu šinde tu-
お前の その 全部の 家畜 牧畜群 人間 ばかりでなく 品 々を みな お前に

11 cibume buki. Ejen muduri baru hendume, ši taka aȵa sefi, uγuri juse
出して やろう。」 王様は 龍に 向って 言うのに, 「お前は 暫く 待て」と言い, 全部の 子ら

12 urun aγu neγu be gemu h8lafi alame hendume, sueni g8nin de apši bo-
嫁 召使い 下女 を みんな 呼んで 告げて 言うには,「お前たちの 考え で どう 考

13 doγo bi, ere muduri hendureηe muse i waη be daη be gaju sembi, bi
えて いる。 この 龍が 言うのに 『我々 の ワン ベ ダン を 連れて来い』と言う。わしは

14 suembe gemu buγe biγe, suembe šue gairak8, damu waη bedaη be buci
お前たちを みな やって しまった。お前たちを すぐ とらない。『ただ ワン ベダン を やれば

15 uthai sueṅi uγuri ṅalma ulγa adun be gemu šindafi uηiki seme gisu-
すぐ お前たちの 全部の 人間 家畜 牧畜群 を みな 釈放して やろう』 と

16 rembi, sueṅi g8nin de apši g8niha bi. Juse sa ama i baru gisurefi, emu
言う。 お前たちの 考え で どう 考えて いる。」 子ら たちは 父 に 向って 話し, 「一

17 waη bedaη ni jalinda ereske ṅalma bucimna, bedaη be buci uthai buki.
ワン ベダン の ために こんなにもの 人が 死ぬのですか。ベダン を 与えるなら すぐ 与えて下さい。」

18 Muderi de han waη be daη be bumbi seme gisurefi, juse urun aγu neγu
龍 に 王様は「ワン ベ ダン を やる」 と 話し, 子ら 嫁 召使い 下女

19 ulγa adun be gemu jurambufi jog8n yabume deribuha. Jobume jigei ho-
家畜 牧畜群 を みんな 出発させて 道を 行き はじめた。 心配して 来ながら

20 tuṅ i hanci išinaha maŋi, juleri emu ṅalma takuraka, šiṅi sargan be
城 の 近くに 着いた ので, さきに 一人の 人を 遣した。「お前の 嫁 を

21 gajime jiγe seme mujiγe alara de, waŋ bedaŋ uju de etuγe maγala be
連れて 来た」 と 知せを 告げる と, ワン ベダンは 頭 に かぶった 帽子 を

22 tere mujiγe alaha ṅalma de bufi, beye morilafi sejen be ogdume geneγe,
その 知せを 告げた 人 に やり, 自身 馬に乗って 車 を 迎えに 行った。

23 sejen-i hanci išinafi julergi sejen deri fonjici, šini sargan tere
車 の 近くに 着き 前の 車 に 尋ねると, 「お前の 妻は あの

24 amargi de emγun moriŋa yabure sarγan jui uthai. Tere inu seme alare
うしろ に ひとり 馬で 来る むすめが 即ち それ だ」 と 告げる

25 de, waŋ bedaŋ morimbe šušhalafi šu(?) amarγi baru geneme hanci iši-
と, ワン ベダンは 馬に 鞭打って まっすぐ あとの 方へ 行って 近くに 至り

26 nafi t'uara de, sargan falaŋdume ilihabi, jue yilaŋgeri falaŋdure-de,
みる と, 妻は ふるえて 立っていた。 二 三度 ふるえる と,

27 waŋ bedaŋ fonjime, ši ainu jue ilaŋgeri falaŋduha, miṅi banjihaŋe ya
ワン ベダンは 尋ねて, 「お前は なぜ 二 三度も ふるえた。 私の 生れつきの体が ど

28 ba eden, mini gala mokso joha ak8, yasa doγo ak8, bethe doholon ak8,
こが 不具か。 私の 手は 断ち 切ったことが ない。目は めくら でない。足は びっこ でない。

29 miṅi šan dutu ak8, ši ainu falaŋdume ciγalarak8, šimbe šiṅi ama mu-
私の 耳は つんぼ でない。お前は なぜ ふるえるほど すかない。」「あなたを あなたの 父は

30 duri de buhe jalin-da bi korsofi falaŋduha. Ere gisun be donijifi ṅalma
龍 に やった の で 私は うらみ怒って ふるえました。」この ことば を きき 人

31 sejen morimbe gemu ilibufi, ama de fonjime, ama, mimbe muduri de bu-
車 馬を みな 止め, 父 に 尋ねて, 「父上, 私を 龍 に

32 heŋe yarġan oci, bi uthai genembi. Ama hendume, buheŋe yarġan ocibe,
やったのが 本当 なら, 私は すぐに 行きます。」 父が 言うのに, 「やったのは 本当 でも,

33 ši t'e generak8 labdu guidame bou de bimbi, utu oho maŋi teṅi genembi.
お前は 今 行かずに ずーっと しばらく うち に いるのだ。そう した のち やっと 行くのだ。」

34 Haha jui ama i emgi gusureme, ak8, bi t'e uthai genembi, bou de mu-
男の 子は 父 と 話して, 「いいえ, 私は 今 すぐ 行きます。 うち に 戻

35 daci tucireŋe maŋa ombi sefi, muduri ici genembi seme morilaha. Mori-
れば 出るのが むずかしく なります」と言い, 「龍 の方へ 行く」と言って 馬に乗った。馬に

36 lafi sargaṅ-i dalba de dulerede, sargan h8lame hendume, oi ašta, ši
乗って 妻 の 傍 を 通ると, 妻は 呼んで 言うのに, 「ねえ 若い方, あなた

37 ebši jiu seme h8laha maŋi, tere eigen sargaṅ i hanci jihe maŋi, sar-
こちらへ おいでなさい」と 呼んだ ので, その 夫は 妻 の 近く 来る と,

38 gan hendume, šini tere yaluha morin joγ8n yabure de muterak8, ši
妻は 言うのに,「あなたの その 乗った 馬は 道を 行くこと が できません。 あなたは

39 miṅi morimbe yalufi geneki, miṅi ere hoaη biau morin de juan jue
私の 馬に 乗って 行って下さい。 私の この 黄栗毛の 馬 に 十 二の

199/
1 ergen bi, gaṅjuhun de bou bi loγo bi sefi, morimbe eigen de yalubufi
命が あります。鞍の皮紐 に 宝の 腰刀が あります」と言い, 馬に 夫 を 乗せて

2 jurambuha.
出発させた。